

横浜市立笠間小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	重点研究や学年会で、横浜市学力・学習状況調査の分析チャートCDを活用し、授業の課題とそれを改善する指導のあり方を検討し学力向上に取り組む。	市学・状の分析チャートを活用した授業改善に向けての取組はよかった。分析結果を授業にどう生かすか、取組の成果、課題をどう判断するのか、さらなる研究が必要である。	A B C D
2 豊かな 心	音楽集会やドレミファコンサートを通して情操教育を充実させる。全学級の道徳の授業を年1回以上公開する。	音楽集会やドレミファコンサートは笠間小の特色として、情操教育によく生かされている。あいさつを含めた「豊かな心」を育てるための道徳教育、人権教育をさらに推進すべきである。	A B C D
3 健やかな 体	体力向上一校一実践運動として縄跳び運動に取り組む。縄跳びカードを作成し、継続的に取り組んでいけるようにする。	長縄の取組は、体力づくり、学級づくりによく生かされていた。全校活動としてより徹底することや時期、時間についての見直しにより、体力づくりにより有効に生かされると考える。	A B C D
4 特別支援 教育	個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。特別に支援を要する児童について情報共有の場を設ける。	児童に関して情報共有して支援していくとする姿勢はよいが、支援策の具体性と実効性を高めていかなければならない。また、情報の集約と引継ぎを確実に行うことの精度を高めたい。	A B C D
5 児童 生徒指導	笠間スタンダードを基に指導の一貫性を図る。YP研修を深め、学級経営に生かす。学級・学年で生活目標にかかわる取り組みを行う。	笠間小のやくそくをもとに、指導の一貫性を図ろうとする姿勢をもつことはできたが、指導の徹底のための共通理解や、見直しのための話し合いはさらに深めていかなければならない。YPを導入できたことよかつたが、計画的な実施により、児童理解、学級経営に生かしたい。	A B C D
6 地域連携	中期学校経営方針の共通理解を図るために、まち懇などを通して説明の場を設ける。学校ホームページを充実させ、教育活動の理解を図る。授業に地域の人の活用を図る。	まち懇やホームページでの丁寧な情報発信ができています。地域との連携もよくできているが、より高いレベルの連携のために、地域力の把握と計画的な活用が必要である。	A B C D
人材育成 組織運営	校務分掌・学年の引き継ぎを計画的に行う。メンターチームを組織し、授業実践など具体的な活動を計画的に実施する。学年主任会を組織し、学年経営の情報交換をする。	メンターチームが組織され、児童指導や授業などに関して、互いに学ぶ場となった。年間を通して定期的な活動ができなかったため、計画的に、活発に活動できるようにしたい。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には落ち着いた学校生活を送っており、掲示物などからは学力水準の高さがうかがわれる。来校者に対しても元気なあいさつができる児童が多い。 教室環境については留意が必要であり、清掃の徹底、整理整頓の工夫が望まれる。ユニバーサルデザインの視点も含め、児童がさらに落ち着いた生活できる環境づくりが進むとよい。 授業の区切りが曖昧であるように感じた。中学の教科担任制との違いはあるものの、「時間を守る」というスタンスは共有していきたい。また、その他のスタンダードに関してもブロックで共有できると、中一ギャップの解消にも有効だろう。 		
学校関係者 評価結果	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、ドレミファコンサート等の行事や地域での校外学習などで見る子どもの姿はとても素晴らしく生き生きとしている。反面、規範意識や自己有用感などについては課題があると感じる。学力よりも大切なこれらのことを、家庭や地域が協力し高めていきたい。 あいさつすることや社会ルールを守ることなど、子どもは大人の姿から学んでいる。地域の大人が責任ある言動を見せることで、子どもたちの意識を高めていきたい。 		
評価結果に 対する 学校の見解	<ul style="list-style-type: none"> 学力については、「理科」の重点研究に取り組むことを通して、児童の学力と教師の指導力を向上させていきたい。加えて、教室環境を含めて児童の生活環境を見直し、ユニバーサルデザイン化を進めたい。 あいさつについてはいまだ不十分と考えている。児童自身による主体的な取り組みを通して、引き続き指導していきたい。 		
学校経営 中期目標 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 児童指導についてはいまだ課題が多い。あいさつをする、時間を守る、話を聞くといったことを一つ一つ丁寧に指導していくことが、規範意識を高めながら自己有用感を高めていくことにつながると考える。 機能的な学校運営のために、主幹教諭を中間に置いた組織が必要である。 		

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	重点研究では国語科に取り組み、「読むこと」の指導を通して、児童に言語能力を身に付けさせる。少人数指導、教科担任制などを通して、「分かる授業」を実現する。	市学・状の分析チャートの結果から、国語の学力と意欲の向上が見られた。引き続き取り組んでいきたい。少人数指導や教科担任制を通して、困り感のある児童にニーズに応えることができた。	A B C D
2 豊かな 心	ドレミファコンサートに加え、バイオリンなどの弦楽器を貸与してもらい、楽器に触れる機会を設定する。オープンスクールなどの機会を活用し、全学級で道徳の授業を年1回以上公開する。	音楽集会やドレミファコンサートを通して「豊かな心」を育てることにつながった。今年度は特別音楽クラブの児童がバイオリンやチェロを演奏したり、三味線奏者を招いて鑑賞したりしたのでこれも情操教育の向上につながった。	A B C D
3 健やかな 体	体力向上一校一実践運動として縄跳び運動に取り組む。今年度は、長縄に加えて短縄にも取り組み、個の目当てをもって取り組んでいけるようにする。	縄の取組は、体力づくりや学級づくりによく生かされていた。今後は、全校活動として定着させるために意欲付けの方法や計画的な運営を考えていく。	A B C D
4 特別支援 教育	個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。特別に支援を要する児童について情報共有の場を設け、全職員で共通理解を図る。	支援策の具体性と実効性を高めるために情報の共有と引継ぎを行い、成果を上げた。今後は複雑化するニーズに応えていくために、柔軟な発想と取り組みをしていく必要がある。	A B C D
5 児童 生徒指導	笠間スタンダードを基に指導の一貫性を図る。専任と学年を中心としたチームで課題を共有し、解決にあたる。YP研修を深め、学級経営に生かす。あいさつ運動を通して、あいさつができる子を育てる。	あいさつ運動や職員の指導によりあいさつができるようになってきた。「笠間小のやくそく」を基に、指導の一貫性を図る姿勢をもつことができた。職員の理解は前年に比べ共通してきたが、見直しのための話し合いはさらに深めていく必要がある。	A B C D
6 地域連携	中期学校経営方針の共通理解を図るために、まち懇などを通して説明の場を設ける。地域と合同で防災訓練に取り組んだり、地域行事について情報を発信したりして地域との連携を図る。学校ホームページを充実させ、教育活動の理解を図る。授業に地域の人の活用を図る。	地域と合同で防災訓練に取り組んだり、地域行事について情報を発信したりして地域との連携を図る。学校ホームページを充実させ、教育活動の理解を図る。授業に地域の人の活用を図る。	A B C D
人材育成 組織運営	教務会を中心に、効率的に学校運営ができるよう組織を見直す。校務分掌を見直し、適材適所を図る。メンターチームを中心に授業研究や研修を行う。	教務会と学年主任会が中心になって組織的な学校運営ができた。ミドル層も主任に配し、経験を積ませる中で育成を図った。メンターチームに授業研究や研修を行い、育成を図った。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	<ul style="list-style-type: none"> あいさつができるようになった。あいさつ運動をはじめとした職員の取り組みが生きている。 今年度は小中間で、陸上部と水泳部が児童・生徒交流を行った。中学生に練習を教えてもらってよかった。子どもたちは互いに近い存在になったことが中学校見学の様子からうかがえる。こうした活動を通して、中一ギャップの解消が実現できるとよいと考える。 今年度は、中学校の先生が6年生に授業をする時間をつくった。6年生の子どもたちも、興味をもって授業に参加することができた。 		
学校関係者 評価結果	<ul style="list-style-type: none"> あいさつがよくできるようになった。地域でもかなりできるようになったが、今後も、学校と同じようにあいさつできるように、保護者にも呼び掛けていく。 体育館の設備がよくなったことや弦楽器が配備されたことがとてもよい。ドレミファコンサートも素晴らしかった。 子どもたちの安全を守るために、登校時だけでなく下校時も見守るとよい。地域で保護者に呼び掛けていきたい。 		
評価結果に 対する 学校の見解	<ul style="list-style-type: none"> あいさつへの取り組みが評価されており、努力した成果ととらえている。引き続き、取り組んでいきたい。 中学校ブロックでの課題の共有や児童・生徒、教員の交流は大きな成果を上げていく。今後は様々な可能性を探っていきたい。 		
学校経営 中期目標 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上は見られるが、「喜び」や「楽しさ」につながっているか疑問が残る。児童一人ひとりが主体的に学び、喜びや楽しさを実感できる指導に取り組むたい。 あいさつへの取り組みやきめ細やかな児童指導を通して、落ち着いた雰囲気になりつつある。小中ブロックで一貫した生活指導を行う必要があると考える。 		

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	重点研究を通して、自ら進んで課題解決に取り組む、分りやすく発表する力を育てるとともに、互いの意見を聞き、共有化し高めあう「質の高い学び合い」の場を構成する。	「身に付きたい力」を系統的に指導することを通して、学び合う姿勢と自分の言葉で話す表現力が、児童に身に付いてきた。学状の結果からも学力と意欲の向上が見られる。	A B C D
2 豊かな 心	音楽朝会やドレミファコンサートに加え、特別合唱クラブや弦楽器クラブの取り組みや音楽鑑賞の場を設けるなどして児童の情操を高める。国及び市の幼保小連携推進事業を受け、1～3年生についても音楽専科を配置し、担任と専科のTTによる授業を行う。	全ての学級に音楽専科を配置したことにより、児童の音楽に対する意欲が高まった。これまでの行事に加え、創立35周年記念事業としてリコーダー奏者を招いたり、幼保小事業の一環として和太鼓奏者を招いたりして、情操教育の向上につながった。	A B C D
3 健やかな 体	体力向上一校一実践運動として縄跳び運動に取り組む。「チャレンジタイム」として学級や個人で参加することで、意欲をもって長縄と短縄に取り組めるようにする。	長縄はこれまで通り「チャレンジタイム」として学級づくりに生かすことができた。今年度は短縄にも取り組み、個人で目標を立て、体力の向上につながることができた。	A B C D
4 特別支援 教育	個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。特別に支援を要する児童について情報共有の場を設け、全職員で共通理解を図る。	支援を必要としている児童に対して、全職員が共通理解して指導・支援をすることができた。「どの先生に見てもらっても大丈夫」ということは、児童や保護者の安心感につながると考える。	A B C D
5 児童 生徒指導	「笠間スタンダード」を基に指導の一貫性を図るとともに、児童一人ひとりが出しているサインを見逃さないように情報共有を図る。専任と学年を中心としたチームで課題を共有し、解決にあたる。YP研修を深め、学級経営に生かす。	問題が発生した時は、専任と学年を中心にして、チームで解決にあたった。問題を早期に解決することで、「落ち着いた学校」を維持している。「落ち着いた学校」とともに「生活・学習環境のユニバーサルデザイン化」を進め、落ち着いた環境を創り出すようにする。	A B C D
6 地域連携	地域と合同で防災訓練に取り組んだり、地域行事について情報を発信したりして地域との連携を図る。学校ホームページを充実させ、教育活動の理解を図る。授業に地域の人の活用を図る。	防災訓練などの取り組みに加え、生活科や総合学習で地域の方々と連携した活動を行うことができた。職員も積極的に地域の行事に参加するようになり、「距離が縮まった」との評価を得た。	A B C D
人材育成 組織運営	「学級担任から学年担任へ」の意識をもってチームで子どもをみとめる。児童支援専任を中心として子どもを具体的な姿でとらえる。主幹教諭を中心として教職員相互の確実な共通理解を図る。	メンターチームの活動が評価され、「優秀教員・チーム賞」をいただいた。本校が初任校の教員も、それぞれの分掌で中心的な役割を果たせるようになってきた。	A B C D
小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	<ul style="list-style-type: none"> 6年生が中学校を訪問して部活動の体験をしたり、中学生が小学校を訪れて水泳大会や球技大会、体育大会の練習を指導したりするなど、中学校との交流を密に行った。児童にとって中学校がより身近に感じられるようになった。 小中の教員が互いに授業を見合い、共通のテーマで意見交換を行った。教科のねらいや小中一貫の系統性など、昨年度に比べ、互いに高めあ関係になった。 		
学校関係者 評価結果	<ul style="list-style-type: none"> あいさつができるようになり、子どもの表情が明るくなった。 学校周辺の「ゾーン30」化や登下校時の見守りなど、子どもの安全が守られている。もっと保護者の協力があるとよい。 		
評価結果に 対する 学校の見解	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な「あいさつ運動」が、学校全体の挨拶につながったと考える。 スクールゾーンの安全強化や登下校の見守りなどは地域の協力なくして実現しない。今後も地域に信頼される学校をつくっていききたい。 		
学校経営 中期目標 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 重点研究や幼保小連携事業などを通して児童の学力は向上しているといっている。また、行事やクラブなどを通して音楽に親しみ、豊かな心を育てることができた。 時間割の見直しやスタンダードを徹底することで「落ち着いた学校」をつくっている。地域との連携が密になり、信頼される学校になってきた。 健やかな体づくりに関しては向上の余地がある。引き続き取り組んでいきたい。 		

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要

横浜市立〇〇 特別支援学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力			A B C D
2 豊かな 心			A B C D
3 健やかな 体			A B C D
4			A B C D
			A B C D
			A B C D
人材育成 組織運営			A B C D

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力			A B C D
2 豊かな 心			A B C D
3 健やかな 体			A B C D
4			A B C D
			A B C D
			A B C D
人材育成 組織運営			A B C D

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力			A B C D
2 豊かな 心			A B C D
3 健やかな 体			A B C D
4			A B C D
			A B C D
			A B C D
人材育成 組織運営			A B C D

外部委員 評価結果	
学校関係者 評価結果	
評価結果に 対する 学校の見解	

外部委員 評価結果	
学校関係者 評価結果	
評価結果に 対する 学校の見解	

外部委員 評価結果	
学校関係者 評価結果	
評価結果に 対する 学校の見解	

学校経営 中期目標 達成状況	
----------------------	--

学校経営 中期目標 達成状況	
----------------------	--

学校経営 中期目標 達成状況	
----------------------	--

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要

㊦…中期学校経営方針上の文言 ㊧…学校評価報告書上の文言 ㊨…保護者アンケートの項目上の文言（案） 赤字…従来の保護者アンケート上で使われていた表現

[共通取組内容]

1 確かな学力

㊦子どもが自ら学ぶ喜びを見つけ、考えを深めていけるような授業づくりを設計し、自ら進んで課題解決に取り組む能力を育てています。授業力向上などの取組を進め、学力向上を図っています。

㊧重点研や学年研で、横浜市学力・学習状況調査の分析チャート CD を活用し、授業の課題とそれを改善する指導のあり方を検討し学力向上に取り組む。

㊨ 学校は、子どもの発達能力に応じて、教育活動を工夫している。

㊨ 学校は、基礎基本を大切にしたりわかりやすい授業づくりに努めている。

2 豊かな心

㊦道徳教育や各教科の授業、ふれあいや体験活動の教育活動を通しながら、自他を大切にする思いやりの心情や態度を育てています。

㊧音楽会やドレミファコンサートを通して情操教育を充実させる。全学級の道徳の授業を年1回以上公開する。

㊨ 学校は、先生や友だち、地域の方々に進んであいさつできる心豊かな子どもたちを育てている。

㊨ 学校は、授業や行事等の教育活動を通して、子どもたちの思いやりの心情や態度を育てている。

3 健やかな体

㊦体育の授業や一校一実践運動の取組を通して、体力向上を目指します。学校保健委員会の活動などを通して、児童が健康への関心を高め、保護者、関係機関との連携を図り健康づくりを進めています。

㊧体力向上1校1実践運動として縄跳び運動に取り組む。縄跳びカードを作成し、組織的に取り組んでいけるようにする。

㊨ 学校は、体育の授業や一校一実践運動（縄跳び運動）等を通して、子どもの体力づくりに取り組んでいる。

㊨

[重点取組分野]

4 特別支援教育

㊦特別な支援が必要な子どもについては、個別の支援計画や、個別の指導計画を立て、それぞれの子どものニーズにあった指導が行われています。

㊧個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。特別に支援を要する児童について情報共有の場を設ける。

㊨ 学校は、特別な支援が必要な子どもについて、それぞれのニーズに合った指導を行っている。

㊨

5 児童・生徒指導

㊦人権教育の推進を図り、「笠間小スタンダード」や子どもの情報を教職員で共有し、子どものよさや課題を把握し、確かな児童理解ときめ細やかな指導に繋げています。

㊧笠間スタンダードを基に指導の一貫性を図る。Y-P研修を深め、学級経営に生かす。学級・学年で生活目標にかかわる取り組みを行う。

㊨ 学校は、子どもの相談や悩み等について、適切に対応している。

㊨ 学校は、「笠間小のやくそく」を基に指導の一貫性を図り、子どもの間違った行動には適切に指導している。

6 地域連携

㊦学校説明会、懇談会、まち懇、学校だよりなどを通して、中期学校経営方針を説明し、学校の教育活動への理解と必要な協力を得られています。地域の教育力の活用を図っています。

㊧中期学校経営方針の共通理解を図るために、まち懇などを通して説明の場を設ける。学校ホームページを充実させ、教育活動の理解を図る。授業に地域の人々の活用を図る。

㊨ 学校は、学校説明会、学校だより、学校ホームページ等で、教育方針や教育活動の様子などの情報提供を適切に行っている。

㊨ 学校は、地域の教育力（人材・環境）を積極的に活用しようとしている。

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要

☆ともに「学校づくり」していこうというスタンス。学校は…、先生は…という表現の中に、一部「お子さんは…」という表現で

☆先生は… という表現より 学校は…？

☆具体的 わかりやすさ